

## 福祉総合学部 福祉総合学科

### 履修の手引と手続き

#### <小 目>

I	カリキュラム・ポリシー	226
II	ディプロマ・ポリシー	227
III	授業科目について	228
IV	授業科目の単位と認定	228
V	卒業に必要な単位について	229
VI	3年次への進級条件及び各学年における標準的な修得単位	230
VII	授業科目の学年配当と履修すべき単位数	231
	1. 学科共通科目群	231
	2. 専門科目群	235
	3. Global College 科目群	241
	4. 特設科目群	243
	5. 自由科目群	244
VIII	リベラルアーツ&サイエンス科目群	246
IX	履修申請について	248
X	正規の履修からはずれる場合	248
XI	試験について	249
XII	授業科目の単位認定と進級および留年	250
XIII	成績発表	251

## 履修の手引と手続き

### I カリキュラム・ポリシー

福祉総合学部では、教育研究上の目的に基づき、福祉の専門性を有する人材を養成するため、学生一人ひとりの資格取得やキャリア目標に応じたカリキュラム（教育課程）を編成する。

- ・地域社会・国際社会・企業社会に通用する資質と社会人基礎力（学士基盤力）を身につけるため、語学系科目、情報系科目等などの「学科共通科目群Ⅰ（基礎科目群）」を置く。
- ・福祉現場でのボランティア、実習体験や研修などを通じて、キャリア形成や生涯教育に資する主体的・自律的な学びを実現し、より深い福祉への理解と実践力を習得するため「福祉疑似体験」「地域福祉研修」「福祉グローバル研修」などの「学科共通科目群Ⅱ（フィールド学習科目群）」を置く。
- ・専門分野の共通基盤（学士専門力）を体系的に身につけ、より広い視野で福祉を考えるため「ジェンダーと福祉社会」「人間学」「福祉まちづくり論」などの「学科共通科目群Ⅲ（コア科目群）」を置く。
- ・高い倫理性と人権意識を持ち、多様な価値観を尊重できる専門職としての実践力・総合力を身につけるため「専門科目群」を置く。

#### <学科共通>

1年次に大学での学習に必要なスキル、専門職としてのキャリア形成、社会人となるための基礎力を育てる「基礎ゼミ」を置く。2・3年次に福祉の理論と技術を身につけるための専門科目や実習を置く。3・4年次に、福祉課題に取り組みそれを解決していくための研究力をつけるため「ゼミナールⅠ・Ⅱ」を置く。

#### 【社会福祉コース】

- ・ソーシャルワークに必要な専門的な知識・技術を習得するために、「相談援助の基礎と専門職」、「ソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱ」などソーシャルワークに関する科目を置く。
- ・社会環境を理解し、人と環境を包括的に捉え、孤立や排除のない地域づくりに貢献するために、「現代社会と福祉」「地域福祉論」「生活保護論」「高齢者福祉論」「障害者福祉論」「子ども家庭福祉論」など社会福祉に関する専門科目を置く。
- ・課題を自ら探求しその解決を図るために、「ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ」「ソーシャルワーク実習指導」「ソーシャルワーク実習」「ゼミナールⅠ・Ⅱ」など演習実習科目を置く。

#### 【福祉心理コース】

- ・精神保健福祉に係わるソーシャルワークに必要な専門的知識・技術を習得するために、「精神保健福祉援助技術総論」「精神保健福祉援助技術各論」など精神保健福祉に係わるソーシャルワークに関する科目を置く。
- ・精神障害者をめぐる現状や多様化するニーズを理解できる力を習得するために、「精神保健

福祉論」「精神保健福祉制度論」など精神保健福祉に関する科目を置く。

- ・精神保健福祉に係わる課題を発見し、自ら解決を図ることができるようになるために、演習実習科目「精神保健福祉援助演習」「精神保健福祉援助実習指導」「精神保健福祉援助実習」などを置く。

#### 【介護福祉コース】

- ・多様化する介護ニーズに対応できる専門的知識・技術を身につけるために、「介護概論」「認知症の理解」「生活支援技術」「リハビリテーション論」「発達と老化の理解」「介護実習」など、介護を必要とする人々の理解の関わる科目を置く。
- ・支援を必要とする人々の人権を尊重した介護の実践ができるよう、「社会の理解」「現代社会と法制度」「社会学」「人間学」「生命と倫理」「生命科学」「人間関係とコミュニケーション」など、人権の理解とその尊重の方法に関わる科目を置く。
- ・チームアプローチの実践ができるよう、「リーダーシップ論」「福祉医療ケアシステム論」「薬の知識」「医療福祉」など、保健・医療の知識と他専門職の役割、及び連携の方法に関わる科目を置く。

#### 【子ども福祉コース】

- ・子どもの育ちを支える専門的知識・技術を習得するために、「保育原理」「保育の心理学Ⅰ」「幼児教育原理」「乳児保育」「保育実習Ⅰ（保育所）」などの科目を置く。
- ・遊びを通じた発達の援助が実践できるよう、「保育内容演習（表現）」「保育の表現技術（音楽）」「幼児体育」「子ども観察法」「幼児教育研究（遊びの援助）」などの科目を置きます。
- ・子どもの教育や保育の課題を国際的・地域的視点から考えることができるよう、「保育者論」「保育内容総論」「子どもの発達と相談」「地域における子育て支援」「Oral English for Children」などの科目を置く。
- ・子どもの教育・保育だけでなく女性・家族が抱える福祉的課題について問題意識を持ち、ソーシャルワークを主体的に活用できるよう、「相談援助演習」「現代社会と福祉」「子ども家庭福祉論」「子どもの権利と福祉」「家庭支援論」などの科目を置く。
- ・多様な学びを実現するために学部横断プログラムとして、リベラルアーツ・サイエンス科目群、特設科目群を置く。

## Ⅱ ディプロマ・ポリシー

福祉総合学部は、以下に掲げる能力を有し、かつ所定の単位を修得した学生に、学士（福祉総合）の学位を授与する。

- ・すべての人々の福祉の増進を目指し、高い倫理性と人権意識を持ち、多様な価値観を尊重できる。
- ・福祉・介護・保育の現状を理解し、課題を自ら探求して、専門的な知識や技能を主体的に活用できる。
- ・国際的・地域的な視野に立ち、国境や文化の境を越えて共感できる能力を有し、孤立や排除

のない社会づくりに貢献できる。

福祉総合学部の各コースは、より具体的な学位授与の方針として以下を掲げる。

#### 【社会福祉コース】

- ・ソーシャルワーク（相談援助）に必要な専門的な知識や技術を習得し、人と環境とを包括的に捉えた支援ができる。
- ・社会環境を理解し、課題を自ら探求してその解決をはかることができる。
- ・国際的な視野に立ち、孤立や排除のない地域社会づくりに貢献できる。

#### 【福祉心理コース】

- ・福祉の専門的知識・技術を習得し、人権を尊重し、多様化するニーズに対応して、生活の質の維持、相談援助などを実践できる。
- ・精神障害者をめぐる現状について理解を深め、その課題を発見し、自ら解決を図ることができる。
- ・国際社会における精神保健福祉の増進、その向上に貢献できる。

#### 【介護福祉コース】

- ・高齢者や障害を持つ人々への生活支援をはじめ、認知症のケアなど多様化する介護ニーズに対応できる専門的知識・技術を身につけ、根拠に基づいた介護を実践できる。
- ・国際的な視野に立ち、支援を必要とする人々の人権を尊重した介護が実践できる。
- ・高い職業倫理と豊かな人間性を持ち、支援を必要とする人々の様々なニーズを理解し、多職種によるチームアプローチが実践できる。

#### 【子ども福祉コース】

- ・子どもの育ちを支える専門的知識・技術を修得し、遊びを通じた発達の援助が実践できる。
- ・子どもの教育や保育の課題を、国際的な視点で考えることができる。
- ・子どもの教育・保育だけでなく女性・家族が抱える福祉的課題について問題意識を持ち、ソーシャルワークを主体的に活用できる。

### Ⅲ 授業科目について

福祉総合学部福祉総合学科における授業科目は、学科共通科目群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、専門科目群及び自由科目群から構成されている。

なお、自由科目においては、教職課程に関する専門科目が配置されている。

### Ⅳ 授業科目の単位と認定

本学では単位制を採用している。単位制とは、一つひとつの授業科目に一定の基準により定められた単位があり、履修した授業科目に対しては、試験もしくはその他の方法により学習評価をしたうえで、その単位を認定する制度である。

単位の認定は、S・A・B・C、4段階の評価により行い、D・E・F・T・Zの評価は単位を認定しない。

## V 卒業に必要な単位について

卒業に必要な単位は、次の表に示すとおりである。

ただし、自由科目は卒業に必要な単位には含めない。

系 列	学部・学科	福祉総合学部	福祉総合学科
	学科共通科目群Ⅰ（基礎科目群）		4
学科共通科目群Ⅱ（フィールド学習科目群）		4	
学科共通科目群Ⅲ（コア科目群）		6	
専門科目群		98	
指定された各科目群より修得した科目以外に、上記の科目群，経営情報学部，国際人文学部，メディア学部又は環境社会学部の科目から12単位以上修得		12	
計		124	

## Ⅵ 3年次への進級条件及び各学年における標準的な修得単位

3年次に進級するには、「基礎ゼミ」及び1年次の必修科目を含め36単位以上修得していなければならない。

各学年に履修する授業科目群および修得単位数の目安は、次の表に示すとおりである。

また、年間の履修登録については原則50単位未満とすること。ただし、大学が教育上適当と認める場合は、履修上限単位数を超えて履修することを認めることがある。

学 年	単 位 数 の 目 安	
1 年次  修得単位数 40単位	学科共通科目群（基礎科目群） Fundamentals of English I 情報メディア演習 I 学科共通科目群Ⅱ（フィールド学習科目群） 学科共通科目群Ⅲ（コア科目群） 専門科目群 基礎ゼミ	1科目2単位（必修） 1科目2単位（必修） 1科目2単位（選択） 3科目6単位（選択） 9科目26単位（選択） 1科目2単位（必修）
2 年次  修得単位数 36単位	学科共通科目群Ⅱ（フィールド学習科目群） 専門科目群 ※上記指定された科目以外に1科目2単位	1科目2単位（選択） 10科目32単位（選択）
3 年次  修得単位数 30単位	専門科目群 ゼミナール I 選択科目 ※上記指定された科目以外に1科目2単位	1科目2単位（必修） 9科目26単位（選択）
4 年次  修得単位数 18単位	専門科目群 ゼミナールⅡ 選択科目 ※上記指定された科目以外に2科目8単位	1科目2単位（必修） 2科目8単位（選択）
卒 業  修得単位数 124単位		

## Ⅶ 授業科目の学年配当と履修すべき単位数

### 1. 学科共通科目群

学科共通科目群は、同Ⅰ（基礎科目群）、同Ⅱ（フィールド学習科目群）、同Ⅲ（コア科目群）の3系列に分かれている。それらの各科目群のうちから「Ⅲ. 卒業に必要な単位について」に示した所定の単位以上を修得しなければならない。

#### (1) 学科共通科目群Ⅰ（基礎科目群）

学科共通科目群Ⅰ（基礎科目群）は、英語によるコミュニケーション能力、情報リテラシー能力の養成と、円滑に学生生活に入るための基礎知識・技法を身につけるための科目群である。

※単位数に○印を付してある科目は必修科目

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
学科 共通 科目 群 Ⅰ	Fundamentals of English I	②				4 単位	「学科共通科目群Ⅰ（基礎科目群）」の中より、必修科目を含み4単位以上選択必修
	Fundamentals of English II		2				
	Oral Fluency I	2					
	Oral Fluency II		2				
	中国語ⅠA	2					
	中国語ⅠB	2					
	中国語Ⅱ		2				
	中国語Ⅲ			2			
	中国語Ⅳ				2		
	韓国語ⅠA	2					
	韓国語ⅠB	2					
	韓国語Ⅱ		2				
	韓国語Ⅲ			2			
	韓国語Ⅳ				2		
	ハンガリー語ⅠA	2					
	ハンガリー語ⅠB	2					
	ハンガリー語Ⅱ		2				
	ハンガリー語Ⅲ			2			
	ハンガリー語Ⅳ				2		
	ポーランド語ⅠA	2					
ポーランド語ⅠB	2						
ポーランド語Ⅱ	2						
ポーランド語Ⅲ			2				
チェコ語ⅠA	2						
チェコ語ⅠB	2						

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
学 科 共 通 科 目 群 I	チェコ語Ⅱ	2				4 単位	
	チェコ語Ⅲ		2				
	ポルトガル語ⅠA	2					
	ポルトガル語ⅠB	2					
	ポルトガル語Ⅱ	2					
	ポルトガル語Ⅲ		2				
	スペイン語ⅠA	2					
	スペイン語ⅠB	2					
	スペイン語Ⅱ	2					
	スペイン語Ⅲ		2				
	フランス語ⅠA	2					
	フランス語ⅠB	2					
	フランス語Ⅱ	2					
	フランス語Ⅲ		2				
	フランス語Ⅳ			2			
	ドイツ語ⅠA	2					
	ドイツ語ⅠB	2					
	ドイツ語Ⅱ	2					
	ドイツ語Ⅲ		2				
	ドイツ語Ⅳ			2			
スウェーデン語ⅠA	2						
スウェーデン語ⅠB	2						
情報メディア演習Ⅰ	②						
情報メディア演習Ⅱ		2					

〔備 考〕

- (1) 第一外国語として英語を学ぶ。うち、Fundamentals of English I は必修科目である。
- (2) 情報メディア演習Ⅱを履修するには、情報メディア演習Ⅰの単位を修得していること。



(2) 学科共通科目群Ⅱ（フィールド学習科目群）

学科共通科目群Ⅱ（フィールド学習科目群）は、地域・社会・文化の実際、福祉分野の経営活動などを体験的に学ぶことにより、実践力を向上させるために設置した科目群である。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
学科 共通 科目 群 Ⅱ	地域ボランティア研修	2				4 単位	「学科共通科目群Ⅱ（フィールド学習科目群）」の中より、4単位以上選択必修  「世界の中の日本 a・b・c・d」は「グローバル研修」の準備講座である。したがって、「グローバル研修」を履修するためには、「世界の中の日本」を修得していなければならない。
	福祉疑似体験	2					
	ユニバーサルデザイン論	2					
	世界の中の日本	2					
	地域と大学	2					
	自校史研究 (建学の精神と大学の理念)	2					
	地域福祉研修	2					
	地域プロジェクト	2					
	福祉グローバル研修		2				
	Communication for Community Work a		2				
Communication for Community Work b		2					

## (3) 学科共通科目群Ⅲ（コア科目群）

学科共通科目群Ⅲ（コア科目群）は、専門教育を受けるために必要な素養を身につけるために設置した科目群である。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
学 科 共 通 科 目 群 Ⅲ	人間学	2				6 単位	「学科共通科目群Ⅲ (コア科目群)」の中 より、6 単位以上選 択必修
	女性福祉論	2					
	ジェンダーと福祉社会	2					
	地域ボランティア論	2					
	ジェンダー論	2					
	グローバル社会と女性	2					
	女性とキャリアデザイン		2				
	世界の児童文学	2					
	福祉文化論	2					
	福祉政策論	2					
	サステイナブル社会論	2					
	福祉まちづくり論	2					
	福祉医療ケアシステム論	2					

## 2. 専門科目群およびその他の選択科目群

### (1) 専門科目群

専門科目群は、「社会福祉士」、「精神保健福祉士」、「介護福祉士」の国家試験受験資格および「保育士」の国家資格を取得するために必要な科目と、それ以外の専門科目およびゼミナールから成っている。

特に国家資格、国家試験受験資格の取得については、厳正な履修条件があるので、後掲の「社会福祉士国家試験受験資格」「精神保健福祉士国家試験受験資格」「介護福祉士国家試験受験資格」および「保育士国家資格」の説明をよく読んで、履修科目の選択に誤りがないように注意すること。また、資格の取得については、毎年度オリエンテーションにおいて詳細な資料に基づいて説明を行うので、その指示に従うこと。

国家資格、国家試験受験資格取得に必要な科目以外の専門科目は、福祉の問題についてより幅広く、より深く学ぶための科目であり、自らのキャリア目標に従って、適切な科目を選択すること。アドバイザーに相談することもそのための一つの方法である。

ゼミナールは、学生各自がテーマを持って研究する科目であり、指導教員の下で、大学における学習のまとめをする必修科目である。

### (2) その他の選択科目群

指定された各科目群より修得した科目以外に、学科共通科目群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、専門科目群、経営情報学部、国際人文学部、メディア学部又は環境社会学部の科目より12単位以上修得しなければならない。

※単位数に○印を付してある科目は必修科目

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専 門 科 目 群	基 礎 ゼ ミ	②				98単位	「専門科目群」の中 より、必修科目を含 み98単位以上選択 必修
	ゼ ミ ナ ー ル I			②			
	ゼ ミ ナ ー ル II				②		
	相談援助の基礎と専門職	4					
	ソーシャルワーク論Ⅰ		4				
	ソーシャルワーク論Ⅱ		4				
	医 学 知 識	2					
	介護の知識と技術	2					
	高 齢 者 福 祉 論	4					
	子ども家庭福祉論	4					
	社 会 学	2					
	社 会 調 査	2					
	現代社会と福祉(職業指導を含む)	4					
	障 が い 者 福 祉 論	4					
	心 理 学	2					
	司 法 福 祉		1				
	国 際 福 祉 論	2					
	生 活 保 護 論		2				
	社 会 保 障 論		4				
	地 域 福 祉 論	4					
	ソーシャルワークの基礎	1					
	ソーシャルワーク演習Ⅰ		2				
	E相談援助演習		2				
	ソーシャルワーク演習Ⅱ			2			
	ソーシャルワーク実習		6				
	ソーシャルワーク基礎実習指導	1					
	ソーシャルワーク実習指導		2				
	社会福祉専門研究Ⅰ			2			
	社会福祉専門研究Ⅱ			2			
	社会福祉応用研究Ⅰ			2			
社会福祉応用研究Ⅱ			2				
医 療 福 祉		2					
就 労 支 援		1					
福祉の財政と計画	2						
福祉経営論		2					

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専 門 科 目 群	医療ソーシャルワーク論		4			98単位	「専門科目群」の中より、必修科目を含み98単位以上選択必修 授業科目欄にEまたはFの表示のある科目は、原則Eクラス（子ども福祉コース）またはFクラス（介護福祉コース）所属の者のみのクラス編成がされる科目である。
	くすりの知識		2				
	権利擁護論		2				
	Eスポーツ科学	2					
	EOral English for Children	2					
	E保育の表現技術(音楽)	2					
	E保育の表現技術(造形)		1				
	E保育の表現技術(体育)		1				
	E幼児国語			2			
	E子どもの生活と社会		2				
	E音楽入門	2					
	E幼児文化論			2			
	E子どもの食と栄養		2				
	E子どもの保健Ⅰ		4				
	E子どもの保健Ⅱ		1				
	E障がい児保育		2				
	E生涯スポーツ概論		2				
	E乳児保育		2				
	E保育の心理学Ⅰ	2					
	E保育の心理学Ⅱ		1				
	E保育実習Ⅰ(保育所)		2				
	E保育実習Ⅰ(施設)			2			
	E保育実習Ⅱ(保育所)			2			
	E保育実習Ⅲ(施設)			2			
	E保育実習指導Ⅰ(保育所)		1				
	E保育実習指導Ⅰ(施設)			1			
	E保育実習指導Ⅱ(保育所)			1			
	E保育実習指導Ⅲ(施設)			1			
	E保育内容総論		1				
	E保育内容演習(健康)		1				
E保育内容演習(人間関係)		1					
E保育内容演習(環境・言葉)			2				
E保育内容演習(表現)			1				
E社会的養護		2					
E社会的養護内容		1					
E家庭支援論			2				

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専 門 科 目 群	E保育・教職実践演習				2	98単位	「専門科目群」の中より、必修科目を含み98単位以上選択必修 授業科目欄にEまたはFの表示のある科目は、原則Eクラス（子ども福祉コース）またはFクラス（介護福祉コース）所属の者のみのクラス編成がされる科目である。
	E保育原理		2				
	E保育者論	2					
	E幼児教育原理	2					
	教育社会学	2					
	E保育・教育課程論		2				
	保育内容指導法		2				
	幼児教育研究（遊びの援助）			2			
	発達障がい支援			2			
	幼児教育方法論			2			
	教育実習（事前及び事後指導を含む）				5		
	生命と倫理		2				
	幼児造形			2			
	幼児体育			2			
	地域における子育て支援			2			
	表現コミュニケーション			2			
	子どもの権利と福祉			2			
	子どもの発達と相談			2			
	障がいを持つ子の理解と支援			2			
	子ども観察法			2			
	音楽演習			2			
	精神医学Ⅰ	2					
	精神医学Ⅱ		2				
	精神保健学Ⅰ		2				
	精神保健学Ⅱ		2				
	精神保健福祉援助技術総論	4					
	心理療法概論			2			
	臨床心理学Ⅰ	2					
	臨床心理学Ⅱ		2				
	精神保健福祉援助技術各論		4				
	精神保健福祉論		2				
	精神保健福祉制度論		4				
精神科リハビリテーション学		4					
認知心理学		2					
社会心理学		2					
人格心理学		2					

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群	精神保健福祉援助演習			2		98単位	「専門科目群」の中より、必修科目を含み98単位以上選択必修 授業科目欄にEまたはFの表示のある科目は、原則Eクラス（子ども福祉コース）またはFクラス（介護福祉コース）所属の者のみのクラス編成がされる科目である。
	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ		1				
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ			2			
	精神保健福祉援助実習Ⅰ			4			
	精神保健福祉援助実習Ⅱ			3			
	心理テスト演習			2			
	芸術療法		2				
	人間関係とコミュニケーション	2					
	社会の理解	4					
	生活と文化	2					
	リーダーシップ論	2					
	生命科学	2					
	現代社会と福祉法制度	2					
	F介護とリスクマネジメント		2				
	Fリハビリテーション論			2			
	Fレクリエーション活動援助法		2				
	F介護概論Ⅰ	2					
	F介護概論Ⅱ		2				
	Fコミュニケーション技法Ⅰ			4			
	Fコミュニケーション技法Ⅱ			1			
	F生活支援技術Ⅰ	3					
	F生活支援技術Ⅱ		2				
	F生活支援技術Ⅲ		2				
	F生活支援技術Ⅳ		2				
	F生活支援技術Ⅴ		3				
	F医療的ケアⅠ			2			
	F医療的ケアⅡ			1			
	F介護過程Ⅰ	2					
	F介護過程Ⅱ		2				
	F介護過程Ⅲ		1				
	F介護総合演習Ⅰ	1					
	F介護総合演習Ⅱ		1				
F介護総合演習Ⅲ			1				
F介護総合演習Ⅳ				1			
F介護実習Ⅰ	2						
F介護実習Ⅱ		4					

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専 門 科 目 群	F介護実習Ⅲ			4		98単位	「専門科目群」の中より、必修科目を含み98単位以上選択必修 授業科目欄にEまたはFの表示のある科目は、原則Eクラス（子ども福祉コース）またはFクラス（介護福祉コース）所属の者のみのクラス編成がされる科目である。
	発達と老化の理解			4			
	認知症の理解Ⅰ		2				
	認知症の理解Ⅱ			2			
	医学概論		4				
	こころとからだのしくみⅠ		2				
	こころとからだのしくみⅡ			2			
	NPOマネジメント			2			
	福祉情報論			2			
	福祉と経営		2				
	福祉リスクマネジメント			2			
	生活と環境			2			
	福祉ビジネス論			2			
	福祉外国専門書講読			2			
日本国憲法			2				



### 3. GlobalCollege 科目群

Global College 科目群には、世界で通用するグローバル人材を目指して、ビジネス、政治、異文化理解、文化、文学など幅広い教養を英語で学ぶことが出来る科目を配置している。

系 列	授 業 科 目	年次および単位数				備 考
		1年	2年	3年	4年	
Global College 科 目 群	Introduction to Japanese Literature	2				「Global College 科目群」において修得した単位は、「リベラルアーツ&サイエンス科目群」と併せて30単位を限度として、学部・学科の各科目群に振り替えることができる。
	Japanese Literature in Translation a	2				
	Japanese Literature in Translation b	2				
	Modern American Literature	2				
	Modern Women's Literature	2				
	Modern Poetry	2				
	Japanese Art and Literature	2				
	Samurai Tradition in Edo Culture	2				
	Japanese Art & Museum Management		2			
	Tradition in Contemporary Japan	2				
	Theory of Acculturation: Minorities in Japan		2			
	Europe and Japan a	2				
	Europe and Japan b	2				
	Cinema Studies	2				
	The Great Directors in the World I	2				
	The Great Directors in the World II	2				
	Japanese Film and Visual Art	2				
	Japan・U.S. Film Comparative Research		2			
	Introduction to French Cinema I	2				
	Introduction to French Cinema II	2				
	Film Industry in Hollywood	2				
	Reading Comics in English	2				
	Animation	2				
Sound Design		2				
World Civilization	2					
Gender and Culture	2					
Women in Asia	2					

系列	授 業 科 目	年次および単位数				備 考
		1年	2年	3年	4年	
Global College 科目群	Modernism in Architecture	2				
	The Cityscape Worldwide	2				
	Business and Society	2				
	International Finance			2		
	International Marketing			2		
	Introduction to Database Theory			2		
	Introduction to Global Management	2				
	Strategic Management		2			
	Methodologies of Cultural Observation: Travel and Dialogue		2			
	Introduction to Social and Environmental Studies	2				
	Ecology Policy	2				
	Environmental Issues & Technology		2			
	Introduction to Health Science		2			
	Japanese to English Translation			2		

#### 4. 特設科目群

本学科の専門分野の知見を深めたうえで、さらにグローバル化社会を担う人材となるために、語学実践力を養うことを目的とした科目である。

系 列	授 業 科 目	年次および単位数				備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年	
特 設 科 目 群	Japanese Language and Culture					「Japanese Language and Culture」は、英語を母国語とする外国人留学生および英語圏外国人留学生を対象とした科目である。修得した単位は、「リベラルアーツ&サイエンス科目群」と併せて30単位を上限として、学部・学科の各科目群に振り替えることができる。 「Basic Japanese a・b・c・d」 「Intermediate Japanese a・b・c・d」 「Advanced Japanese a・b」 は、日本語プレスメントテストの結果によりクラス指定を受けて履修すること。 その他の科目については、オリエンテーションを受けたうえで履修すること。
	Basic Japanese a	4				
	Basic Japanese b	4				
	Basic Japanese c	4				
	Basic Japanese d	4				
	Intermediate Japanese a		4			
	Intermediate Japanese b		4			
	Intermediate Japanese c		4			
	Intermediate Japanese d		4			
	Advanced Japanese a				4	
	Advanced Japanese b				4	
	JLPT course a				4	
	JLPT course b				4	
	Japanese Project a				2	
	Japanese Project b				2	
	日本文化 a		2			
日本文化 b		2				
日本社会 a		2				
日本社会 b		2				

## 5. 自由科目群

自由科目とは卒業に必要な単位数には加算されないが、自由に選択履修することのできる授業科目である。

本学科においては、自由科目として、教職課程の科目が準備されている。これらの自由科目については、後掲の「教職課程」の説明を参照のこと。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
自由科目群	介護演習		2				
	外国史概説		2				
	日本の歴史 a		2				
	日本の歴史 b		2				
	地理学 a		2				
	地理学 b		2				
	地誌			2			
	法律学概論		2				
	国際法				4		
	国際経済学				2		
	経済原論 a		2				
	経済原論 b		2				
	倫理学概論		2				
	宗教学概論			2			
	教育原理		2				
	教職論	2					
	教育心理学		2				
	青年心理学		2				
	教育課程論	2					
	教育制度		2				
	教育方法論			2			
	社会科教育法Ⅰ			2			
	社会科教育法Ⅱ			2			
	社会科教育法Ⅲ			2			
	社会科教育法Ⅳ				2		
	公民科教育法Ⅰ			2			
	公民科教育法Ⅱ			2			
福祉科教育法Ⅰ			2				
福祉科教育法Ⅱ			2				
道徳教育の理論と方法	2						

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
自由 科目 群	特 別 活 動 論		2				
	生 徒 指 導 (進路指導の理論及び方法を含む)		2				
	教 育 相 談 (カウンセリングを含む)			2			
	教 育 実 習 I (事前及び事後指導を含む)				3		
	教 育 実 習 II				2		
	教職実践演習(中・高)				2		
	介 護 実 技 現 場 実 習				1		

## Ⅷ リベラルアーツ&サイエンス科目群

リベラルアーツ&サイエンス (LAS) センターは、本学の建学の精神に基づく人格形成、幅広い教養や知識の習得、専門分野での学業に役立つ問題意識の育成、社会人として求められる基礎能力の向上等を主たる目標として掲げている。

学生の皆さんにも、こうした問題意識をもって科目履修をしてもらうために、学部・学科ですでに開講している科目を“人格形成領域”“一般教養領域”“基礎能力領域”という3領域に大きく分けて整理し直し、「リベラルアーツ&サイエンス科目群」として特別に提示している。各々の領域は、

人格形成領域：「地球と環境」「人間と思想」「国家と規範」「倫理と社会」「社会とジェンダー」  
という5テーマ

一般教養領域：「人類のあゆみ」「文化のかたち」「社会と経済」「健康と福祉」という4テーマ

基礎能力領域：「非言語分野」「言語分野」「ビジネスマナー」「プレゼンテーション」という4  
テーマ

に分けてまとめている。いずれも、学生の皆さんが就職して社会へ出る準備をするうえで重要とされるテーマである。

これらに加えて、LASセンターが特に力を入れたい分野・テーマについては独自の科目として開講し、さらに必要に応じて開講するサマースクール等も「総合基礎教養Ⅰ～Ⅳ」として単位認定する。LASセンターが独自に開講するこれらの科目は、すべて1～4年次のいずれかで履修することができる。

「リベラルアーツ&サイエンス科目群」を履修して修得した単位は、30単位を限度として申請により、学部・学科のいずれかの科目群に振り替えることができる。「リベラルアーツ&サイエンス科目群」の履修や内容についての質問、学業に係わる相談等は、本部棟4階にあるLASセンターにて随時受け付けている。

リベラルアーツ&サイエンス科目群

領域	系 列	授業科目	年次および単位数				備 考
			1年	2年	3年	4年	
人格形成領域	①人間と思想	現代の人間思想	2				L A S 科目群から修得した単位の中から 30 単位を限度として、各科目群に申請により振り替えることができます。詳細については、オリエンテーション時に説明します。
		現代思想	2				
	②国家と規範	政治学入門	2				
	③倫理と社会	情報社会と情報倫理	2				
④社会とジェンダー		女性学入門	2				
一般教養領域	①人類のあゆみ	サルからヒトへ	2				
		アメリカの歴史	2				
		韓国の歴史	2				
		中国の歴史	2				
		人類と科学技術の発達		2			
	②文化のかたち	文化人類学	2				
		日本文化論	2				
		アメリカ文化概論	2				
		日本美術	2				
		西洋美術	2				
	③社会と経済	社会学入門	2				
		経済事情	2				
		経済学入門		2			
		経済学の基礎	2				
		中国経済入門		2			
	④健康と福祉	心と身体の科学		2			
		健康維持と生活習慣		2			
	基礎能力領域	①非言語分野	基礎の数学	2			
線形代数学			2				
統計学の基礎知識			2				
総合基礎教養Ⅰ(非言語)			2				
総合基礎教養Ⅱ(非言語)			2				
②言語分野		日本語基礎表現法	2				
		総合基礎教養Ⅲ(言語)	2				
		総合基礎教養Ⅳ(言語)	2				
③ビジネスマナー		ビジネス入門	2				
		ビジネス基礎		2			
		ビジネスマナー		2			
		航空・空港キャリア概論 a	2				
		航空・空港キャリア概論 b	2				
④プレゼンテーション		プレゼンテーションⅠ	2				
		プレゼンテーションⅡ	2				

## IX 履修申請について

各年次において履修しようとする授業科目は、毎学期の初めの指定された期日に、所定の方法（オリエンテーションで説明する）で履修申請をしなければならない。履修申請は、年間の受講計画をたて、単位を取得する意思表示をする学期初めの重要な手続きである。この履修申請手続きを間違えたために、授業科目の履修ができなくなり、その結果、進級はもとより卒業ができなく場合もあるので、以下に掲げる注意事項を厳守して、誤りの無いように履修申請をすること。

- (1) 履修授業科目および担当教員などの変更，追加，取消しなどが無いよう，入力する前に授業時間割表に則してもう一度確認するなど，細心の注意を払うこと。なお，履修照合期間が設けられているので間違いなく登録されているかどうかを必ず確認すること。
- (2) 履修申請をしていない授業科目は，受講しても単位は認められない。また修得した単位は分割することはできない。よって，授業科目の申請にあたっては進級や卒業に必要な単位の算定を慎重に行い，修得単位数が不足しないように万全を期すこと。
- (3) 同一学期の同一時限に2つ以上の授業科目を履修することはできない。
- (4) 一度単位を修得した授業科目は，再度履修することはできない。
- (5) Web履修では，授業科目，コマ・コード番号など必要事項を正しく入力すること。入力上の誤りは申請自体が無効になるので十分注意すること。また，入力の際，PCの前で長時間考えているとタイムアウトになる可能性があるため，登録する講義や時間割の下書きを準備してから入力すること。なお，大学内に設置されているPCの台数は限られているので，Web履修のために長時間占有しないこと。
- (6) コマ・コード番号とは，時間割表に授業科目と共に記載されている番号で，その時限の授業科目に固有の番号である。
- (7) 指定された期日までに履修申請を怠った場合は，学業の意思なしとみなされて，退学処分となるので入力期限を厳守すること。
- (8) 教職課程・副専攻・留学等，履修についての質問は，それぞれのアドバイザーもしくは，学部事務室に相談すること。

## X 正規の履修からはずれる場合

### 1. 再履修

履修申請をして単位が取得できなかった授業科目については，次年度または次学期において再び履修することができる。

### 2. 規定外履修

該当するクラスの授業時間以外のクラスで受講せざるを得ない場合は，必ず学部事務室に相談すること。ただし1年次生の規定外履修は原則として認めない。アドバイザーと相談の上必ず学部事務室に申しでること。



## XI 試験について

### 1. 定期試験および臨時試験

- (1) 試験は、定期試験と臨時試験があり、定期試験は原則として学期末あるいは学年末に行い、臨時試験は担当教員の判断により適宜行われる。
- (2) いずれの授業科目も授業時数の1/3以上欠席した場合には、原則として当該授業科目の受験資格を失う。ただし、病気または正当な理由により長期欠席の場合には、特別に配慮されることがある。
- (3) 試験の時間割は掲示により連絡する。
- (4) 授業科目によっては論文（レポート）提出によって試験に代える場合がある。

### 2. 追 試 験

- (1) 追試験は、やむを得ない事情によって定期試験を受験できなかった者に対し、原則として学期末または学年末に実施する。
- (2) 追試験を希望する者は、正当な事由を証明する書面を速やかに授業担当教員に届け出ること。
- (3) 追試験は、成績表の当該科目にTの表示がなされた場合に限って受験することができる。  
なお、追試験は、履修（再履修を含む）した年度に限り受験することができる。
- (4) 追試験を受験しようとする者は、「追試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。

なお、追試験の受験料は、1科目につき200円である。

### 3. 再 試 験

- (1) 再試験は、原則として学期末または学年末に実施する。ただし、授業科目によっては再試験を行わない場合もある。
- (2) 定期試験の結果、不合格（この場合成績表の当該科目にFの表示がなされる）となった授業科目のある者は、当該授業科目の担当教員が再試験を行う場合、受験することができる。  
なお、再試験は、履修（再履修を含む）した年度に限り受験することができる。
- (3) 再試験の受験を許可された者は、「再試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。

なお、再試験の受験料は、1科目につき1,000円である。

### 4. 試験に関する注意

#### 1. 通 則

- (1) 試験場内では、すべて監督者の指示に従わなければならない。なお、監督者の指示に従わない者には、退場を命ずることがある。
- (2) 試験場内では、筆記用具・持込みを許された資料以外のものは、すべて監督者の指

定する場所におかなければならない。

- (3) 受験者は学生証および受験許可証（追・再試験の場合）を、机の上の見やすい場所に提示しておかなければならない。
- (4) 試験開始から20分を経過した後は入室・受験を認めない。
- (5) 試験開始から25分を経過するまでは退場を認めない。なお、監督者が退場を命ずる場合はこの限りではない。
- (6) 受験者は、試験中監督者の許可を得ないで試験場を出てはならない。
- (7) 試験の行われる学期の授業料未納の者・授業時数の1/3以上を欠席した者は、試験を受けることができない。
- (8) 病気・事故その他正当な事由によって受験できなかった者は、診断書・事故証明その他正当な事由を証明する書面を添えて、遅滞なく授業担当教員に届出なければならない。

## 2. 試験における不正行為の懲戒について

- (1) 不正行為をした者については、学則第68条により罰せられ、更に年度における当該授業科目の単位の認定を行わない。
- (2) 不正行為のあった者の懲戒処分については、教授会の審議を経て、学長が決定する。
- (3) 学長はその旨保証人を召喚して通知すると共に学内にこれを公示する。

## 3. 試験における不正行為とは

- (1) 他の人から答えを教わることや、教えること等、いわゆるカンニング及びその手助けをすること。
- (2) 本人以外の名前・学籍番号で受験すること。
- (3) 許可されていないものを使用すること。
- (4) 「解答はじめ」の前、及び「解答おわり」の後に、試験監督の指示に従わず、解答を続けること。
- (5) その他、試験監督の指示に従わないこと。
- (6) 論文・レポート等において、剽窃行為をすること。

※剽窃行為…引用の形式をとらず、著作権者に無断で著作物を複製・転載する行為。学術上のルール・モラルに反する行為であり、著作権法に違反する行為。

## XII 授業科目の単位認定と進級および留年

### 1. 単位認定

- (1) 各科目の成績は、シラバス記載の成績評価基準に基づき総合的に判定する。
- (2) 100点を満点とし、60点以上をもって単位修得（合格）とする。  
その評価は次に従う。

評価	得点分布
S	100点～90点
A	89点～80点
B	79点～70点
C	69点～60点

- (3) 再試験における評価は60点を合格とし、79点を上限とする。
- (4) 再試験における成績評価の最高点は、定期試験合格者の成績評価の最低点を上回らないものとする。

## 2. 進級及び留年

- (1) 3年次への進級については、指定された進級要件を満たした場合に可能となる。  
 なお、指定された進級要件を満たさない場合においても、教授会の決定により進級を認める場合がある。
- (2) 4年次で卒業要件を満たさない者は留年とする。

## XIII 成績発表

- (1) 成績発表は、アドバイザーまたは演習担当教員より本人に成績表を交付するので、学部事務室の指示に従って必ず交付を受けること。その際、学生証を提示すること。  
 なお、指定された期日以外には交付しない。
- (2) 成績の評価は次の記号で表わし、60点以上をもって単位修得（合格）とする。

(合格)	(正規試験不合格)	(追・再試験不合格)
S：100～90点	F：59点以下（再試験受験可）	D：59点以下
A：89～80点	T：追試験受験可	E：未受験
B：79～70点	Z：追・再試験の受験資格なし	
C：69～60点	評価不能	

- (3) 成績表には、学習成果を総合的に推し量る指標 GPA（Grade Point Average）を表記している。  
 詳細については、Web履修登録画面にて確認すること。
- (4) 成績についての疑問、質問等は成績表交付日のみ受け付けるので、学部事務室に問い合わせること。
- (5) 病気、事故等により指定日に成績表の交付を受けられない場合は、代理人を定め、成績表の交付を受けること。その場合、代理人は学生証および委任状を持参すること。

